

令和6年度 兵庫教育大学附属中学校 学校経営計画

1 めざす学校像等

1 はじめに

新年度にあたり、大学の支援のもと本校の充実が図られている。まず人事面では、附属中学校に常駐する副校長（校長代理）が着任した。また、教員の入れ替わりが大きい本校であるが、教員不足の中で派遣自治体の協力も得て、自治体派遣の教員を10名から14名に増やすことができた。今年度も全国から本校で学びたい教員が集う多様性と意欲を、最大限に生かした学校運営に努める。

さらに、施設面では、予定通り本館の改修が終了した。明るくなった教室や廊下、生徒会室や多目的室、職員室、広いアクティブラーニングルームも整備できた。今年度は、さらに体育館や特別教室、図書館の工事が始まる。工事の影響が出ないように、教育活動を工夫して生徒の教育に取り組む1年間としたい。

2 附属学校園の「ミッションとビジョン」等

今年度も「兵庫教育大学附属学校園のミッションとビジョン」（以下「ミッションとビジョン」）実現の原点に立ち帰り、基盤を固め着実な成長を図る1年とする。また、めざす生徒像や「10の学習者像」の再検討の必要性も含めて検討していきたい。ただし今年度当初については、昨年と同様以下の通りとする。

（1）附属学校園の「ミッションとビジョン」から

○ 学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の12年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

○ 子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

○ 教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえ、先進的で優れた教育実践に取り組み、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

（2）めざす子ども（生徒像）像について

附属中学校では独自にめざす子ども像を設定しており、今年度については昨年と同様以下の通りとする。

①生徒像

「平和で人間らしさが追求できるより良い社会の実現のために、物事を多角的多面的に理解し、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動することで、社会の変化と持続可能性をもたらす新しい価値を「共創」できる市民の育成をめざす」

②「10の学習者像」の再検討

- ①探究し創造する人 ②自他を認め、心を開く人 ③知識を習得し、考え続ける人 ④正しい判断力による信念を持つ人
- ⑤豊かな心を持ち考察できる人 ⑥強い心を持ち挑戦する人 ⑦互いに信頼できる人 ⑧社会に貢献する人 ⑨協働できる人
- ⑩知・徳・体の調和が取れた人

2 中期的目標（3年間程度）

1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり

（1）新たな学校運営体制と管理職による的確なガバナンスの確立

新たに配置された副校長を含めて、学校運営組織体制の構築及びガバナンス機能を充実させる具体的な取組を推進し、教員養成フラッグシップ大学の取組の一翼を担う組織として、目標達成に向かうガバナンスの確立を図る。

（2）積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築

管理職を含む教職員間の関係づくりを推進し、教職員間が互いに助け合い、多様性を認め協力して同僚性を高め、保護者や生徒にとっても、教職員にとっても成長が実感できる居心地の良い学校、職場をめざす。

特に、特定の教員に負担が偏って時間外勤務が増大することが無いように、管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師がそれぞれの責任をしっかりと果たす体制づくりに努め、校務分掌の不断の改善を図る。

（3）生徒に対する取組みの成果を意識する。

良い授業の結果として、学力テストや授業に関する質問紙調査等により検証し、自己の授業や学級経営を振り返り、授業改善やカリキュラム改善の参考とする。

2 学校を取り巻くステークホルダーとの信頼関係の強化

(1) 大学との共同研究の取組の推進

- ①森山教授と永田教授の協力による STEAM 教育と教科に関する研究の取組。インテル STEAMLAB0 を活用した取組の充実。
- ②大学教員の指導を受けて、教科部として授業力の向上を図る。大学との共同研究体制の確立

(2) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の円滑な推進

- ①保護者、生徒も学校運営に関わる、ガバナンス重視のコミュニティ・スクールの導入を検討し、学校運営の安定性・継続性に努め、当事者として学校づくりを担う責任感の共有を図る
- ②地元自治体等との関係改善
地元自治体や地元の公立学校と協力し合える関係構築をめざして、具体的な地域貢献活動を検討推進する。
- ③附属学校ならではの効果的で意味あるコミュニティ・スクールの取組として、地域の「教員の知の拠点」をめざす。

(3) 新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

教員採用における派遣自治体の信頼を獲得し、教員不足下でも、派遣教員の増加をめざした取組を大学と共に推進する。

3 安全・安心な学校づくり

(1) いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。

教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う集団を形成する。

(2) 学校事故の未然防止の徹底のために必要な対応を実施する。

(3) 授業規律、生活規律等の検討と統一した指導。

どの学年も新たに赴任した先生と共に統一して指導できる指導ルール of 明確化

(4) 長期欠席者の理由の明確化、適切なアセスメントと対応。生徒や保護者への相談・支援体制確立。

(5) 新型コロナウイルス等感染症への適切な対応の徹底

(6) 今年度も校舎改良工事について安全にかつ教育環境が低下することが無いように十分に配慮する。

4 附属学校としての新しい文化の創造

(1) 働き方改革の推進

①全国の附属学校の課題である働き方改革の取組。

在校時間の適切な自己管理、時間外勤務の適切な取り扱い、教員の負担の公平化、会議の短時間化等の取組を推進する。

原則時間外会議の禁止と計画的な会議の効率化や休憩時間確保等の改善。

②取組の継続・改善のため在籍3年を見越した校務分掌の改善検討。

③地元自治体の働き方改革のリーダーとなるミドルリーダーのタイムマネジメント能力獲得。

④新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

(2) 校種間連携の推進

校種間連携については各自治体の取組には大きな格差があり、カリキュラムの一貫性等一貫教育を推進できる教員は自治体では不足しており、その育成は強く求められている。校長が小中で兼任となったことを最大限に生かし、特に小中間の連携を深め、人事異動等も含め、幼小中の一貫教育の具体的な取組推進とそれができる人材育成を進める。

(2) カリキュラムマネジメントの推進

適切な学校運営や教育課程の実施の実施のための体制を整備し、運用する。さらに本校では、これまでのキャリア探究総合の取組に加え、大学との共同研究による STEAM 教育の研究も含めて、計画的で適切なカリキュラムマネジメントに努める。

(3) 「教員養成の知の拠点化」推進

地元教育委員会の教科研究会等への参加や兵庫県教育委員会・研修センターとの連携に努め、本校を実践研修の場としての活用を進めることや、自治体単位で行われている研修や研究会を本校で開催する。その発信を通して、附属学校の存在価値を高め、新任教員、学部卒業生、実地学生、附属学校教員の資質向上に貢献する。

(4) 実地教育の改善・充実

大学の重要なカリキュラムであり附属学校の本務である実地教育の一層の充実に努め、一層の DX 化も含めて充実した実地教育をめざす。

(5) 異文化理解教育、国際理解教育の推進

大学グローバル教育センター等との連携により、日常的に留学生との触れあいの機会や異文化理解教育、国際理解教育を推進し、世界で活躍できる土壌を醸成する。附属学校児童・生徒の短期留学制度の創設や附属学校教員の海外派遣等により附属学校と公立学校の差別化・魅力化を図る。

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動等

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価と学校関係者評価 達成状況（5段階評価）
1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり	<p>(1) 大学・管理職による的確なガバナンスによる学校運営</p> <p>(2) 積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築</p> <p>(3) 教員の指導実態と子どもの学力実態の把握と改善</p>	<p>①学則に則った学校運営と校内体制づくり 主幹教諭の登用と運用、計画的で機動的な企画運営委員会</p> <p>②理念浸透 保護者向け附中だよりと教職員向け校長通信</p> <p>①人事評価制度の適切な運用 ②校務分掌の改善。管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師等がそれぞれの責任を果たす体制づくり。</p> <p>③生徒像と10の学習者像の再検討を開始する。</p> <p>①学力テストと教員アンケートの実施等で教員が自らの指導状況を自覚する。</p>	<p>①学長及び大学への適切な報告等、学則に沿った計画的な学校運営ができたか。主幹教諭の運用状況 企画運営委員会の運用状況</p> <p>②附中だより、校長通信(月1回以上)</p> <p>①自己申告表作成・面談・評価の適切な実施 ②「職場アンケート」 職場内人間関係の肯定的評価、困った時に管理職や主任に相談できる状況の改善 ③再検討の開始ができたか。検討状況</p> <p>①生徒の学力状況。授業や家庭学習支援の状況についての生徒・保護者アンケートの結果</p>	
2 学校を取り巻くステークホルダーとの信頼関係の強化	<p>(1) 大学との共同研究の取組の推進</p> <p>(2) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）</p> <p>(3) 新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大</p>	<p>①インテル STEAMLABO を活用した取組の拡大 ②森山教授・永田教授と STEAM 教育の小中共同研究を行う。 ③研究授業の実施、効率的な小中合同の研究発表大会の工夫と実施</p> <p>①学校運営協議会の積極的な運用 ②合同部活動も含めて地元学校の会合に積極的に参加する。 ③加東市等自治体との連携強化</p> <p>①自治体における人事計画に混乱を招かぬよう最大の配慮をする。 ②自治体の本校に対する期待について把握する。 ③加東市や副校長派遣自治体と特定教諭や非常勤講師についての協議を行う。</p>	<p>①インテル STEAMLABO を活用した教員数 ②STEAM 研究の広がりや進展拡大。2年目の取組の評価。 ③大学教員の指導の下、研究授業や小中合同研究発表大会の実施状況。</p> <p>①学校運営協議会の定期的な開催 ②合同部活動の状況等 ③研究大会における公立学校教員の参加状況、学校の地域貢献の状況</p> <p>①自治体からの教員派遣状況の推移 ②自治体訪問による把握ができたか ③加東市等との協議ができたか。</p>	
3 安全・安心な学校づくり	<p>(1) いじめの未然防止、早期対応の徹底</p> <p>(2) 学校事故の未然防止対策</p> <p>(3) 授業規律、生活規律等の検討と統一</p> <p>(4) 長期欠席者の理由の明確化、適切なアセスメントと対応。生徒や保護者への相談・支援体制確立。</p> <p>(5) 感染症への適切な対応</p> <p>(6) 校舎改良工事に関する安全確保</p>	<p>①的確な「校内いじめ対策会議」の開催と生徒指導への情報集約。附属学校教育相談室の設置と運用様々な取組を通して違いを認め合う集団をめざす。</p> <p>①エビペン研修等学校安全研修の実施、学校安全に関する県事業への参加</p> <p>①生徒指導委員会等の開催 ②授業規律、生活規律等の徹底</p> <p>一人ひとりを大切にする附属学校教育相談室の設置と運用により、生徒や保護者の相談・支援体制を確立する。子ども家庭センターや居住地自治体、警察等関係機関とも的確に連携する。</p> <p>①学校医等との連携による学級閉鎖・学年閉鎖等の的確な判断</p> <p>①体育館や特別教室の工事における大学関係各課との連携強化。</p>	<p>①いじめの把握件数 生徒、保護者アンケート結果</p> <p>①研修の実施状況 ②ケガによる保健室来室生徒数</p> <p>①ルールが徹底できたか。 保護者アンケート結果等</p> <p>①SC、SSW 等との的確な連携状況 ②不登校児童と配慮を要する生徒の対応状況の把握、個別の支援計画の作成状況等</p> <p>①大学との円滑な連携状況</p> <p>①安全に工事が進捗しているか</p>	

4 附属学校としての新しい文化の創造	(1)働き方改革推進 ①時間外勤務申請の手続きの適正化 ②教員自らが自分の勤務時間を確実に管理し、自らの働き方や効率的な業務の進め方について考える。 ③ミドルリーダーによる把握	校長による管理から、学年主任等ミドルリーダーによる把握と声掛けにより、組織的に推進する。 ①在校時間の適切な自己管理 ②時間外勤務の適切な取り扱い ③時間外会議の原則禁止と会議時間の短時間化、学年主任等による承認手続き	①時間外勤務手続きの改善状況 時間外勤務時間の縮減状況 ②労働基準法の遵守状況 ③ノー残業デーへの積極的な取組	
	(2) 校種間連携の推進	①小中合同研究発表大会の改善 ②幼・小・中合同の学校安全の取組 ③学校園間での教員の人事交流	①小中合同研究発表大会の改善状況 合同教科部会の開催状況 ②学校安全の取組状況 ③人事交流状況	
	(3) カリキュラムマネジメントの推進	①学習指導要領に則った教育課程実施状況の確実な把握。STEAM教育の取組の位置付けの明確化。 ②キャリア探究総合に継続的に取り組む ③STEAM教育の小中共同研究を実施（再掲2（1））	①標準授業時数等の実施状況 ②③キャリア探究総合の取組充実と森山・永田教授の協力を得て大学との共同研究を推進している STEAM教育の推進状況（再掲2（1））	
	(4)公正が確保された教科書採択の実施	中学校教科書の採択替えにあたり、公正確保に努め適正な教科書採択を行う。	②組織的な対応により教科書採択の公正確保が達成できたか	
	(5) 「教員養成の知の拠点化」推進	①附属学校教員が研修講師となって地域に出かけていく機会や学校を実践研修の場としての活用を進め発信する。	①研修講師となった人数と回数 ②研修の場となった事例や地域の教員の研修会等の開催状況	
	(6)実地教育の改善・充実	①教育実習総合センターと具体策の検討、さらなる改善策を検討	①実地教育学生の実習後のアンケート結果の改善状況	
	(7) 異文化理解教育、国際理解教育の推進	附属学校児童・生徒の短期留学制度の創設や附属学校教員の海外派遣等により附属学校と公立学校の差別化・魅力化を図る。	①留学生等との交流状況 ②短期留学訪問制度の構築できたか ③教員の海外派遣の検討状況	
	(8)その他 入試制度の改善 ミドルリーダーが成長する学校づくり	①望ましい連絡進学の在り方検討。 ②指導主事や、主幹教諭等で活躍できるミドルリーダーづくり	①大学院進学希望者の増加と在籍状況 ②主幹教諭の配置状況、指導主事選考の受験状況等	

4 第3者評価の総評

学校経営コースによる